



利府町立利府西中学校 令和6年1月9日 No.14

恒 心

学校教育目標：ゆたかに 明るく たくましく



明けましておめでとうございます 今年もよろしくお願いします

明けましておめでとうございます。本日1月9日（火）に3学期始業式を行いました。式に先立ち、1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」での犠牲者を悼み、黙祷を行いました。改めて犠牲となった方にお悔やみ申し上げます。

校長式辞

2024年を迎え、年頭の挨拶を申し上げます。

年始めから大きな災害が発生しました。令和6年能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、犠牲になられた方々に、謹んで哀悼の意を表します。

さて、生徒の皆さん、冬休みは健康で充実した毎日を過ごせましたか。今日の始業式に、生徒の皆さんの元気な姿と素敵な笑顔に出会えたことに感謝したいと思います。

今日から3学期、とても短い学期ですが、進級や進学に向けて一年の総まとめをしなければいけない、とても重要な学期です。一日一日を大切に過ごしていってほしいと思います。

新年のはじまりである正月は、今年一年の目標を立てる大切な機会です。今年目標を定めた皆さんに、「初心忘るべからず」という言葉について少し、お話をしたいと思います。

「初心忘るべからず」このことわざは、物事に慣れてくると、慢心してしまいがちになるが、始めた頃の新鮮で謙虚な気持ち忘れてはいけないという意味にとるのが一般的です。しかし、このことわざのルーツをたどると、ちょっと違う意味のようでした。

この言葉は世阿弥という、日本古来の伝統芸能「能」を芸術に高めた人が述べた言葉だと言われています。世阿弥の言う「初心」とは「初志」ではなく、「芸の未熟さ」つまり、「初心者頃の頃のみともなさ」なのだと言っています。勉強とか、部活動とか、習い事とか、はじめの頃は分からないこと、できないこと、そして、失敗ばかり…。そうしたみともなさや未熟さを折に触れて思い出すことで、「あのみじめな状態には戻りたくない」と思うことで、更に精進できるのだと世阿弥は言ったのだそうです。そして、若い頃の未熟な自分を忘れなければ、そこから向上した今の自分の姿も、正しく見つめ直すことができるのだとしています。

ただ目標を掲げるだけでは、なかなか頑張れないものです。未熟な自分を意識し、そこから1歩でも2歩でも上を向いて登っていこうとする、そういうたくまさを皆さんにも持って、活躍していきたくて期待しています。

2024年が最良の年になりますようお祈りして、3学期始業式の式辞とします。

式辞の後に、学年や生徒会代表の生徒が新年・3学期の抱負を述べました。
発表してくれたのは次の4名です。

1年生代表 1年4組 川野 有翔 さん
2年生代表 2年2組 安田 篤生 さん
3年生代表 3年1組 武田 匠真 さん
生徒会代表 1年3組 菊田 なお さん

いずれの生徒も高い目標を設定し、新しい年、新しい学期での飛躍を誓った素晴らしい発表でした。

3学期は、3年生は43日、1・2年生は51日の短い学期です。生徒全員が一日一日を大切に次のステップに向かって頑張っていけるよう、我々利府西中の教職員も一人一人を全力を尽くして支えて参ります。2024年、令和6年もよろしくお願い申し上げます。



がんばれ～！！

県中総体スキー大会（1月13日～14日：山形）出場 1年2組 内海 花奈さん



おめでとうございます

◎宮城県造形教育作品展 入選 鎌田 悠杜 さん（3-1）
〃 入選 安藤 あかり さん（3-2）

